

た子さんを初めて幼稚園に送る方へ

充分な心づかひは大切だがくどく言ひきかすのは子供に悪い

倉 橋 惣 三

(一)

初めて子供を幼稚園におくるについて一番大事でしかもよく間ちがへられてゐることがある。それは明日から幼稚園へ行くのだといふので大層かたくるしい生活に入るものゝやうに子供に説きかせることである。之は小學校の場合でも同じ事で、教育といふものを餘り特別な窮屈な心持ちで初めるといふ事は極はめてよくない事である。學校と異り幼稚園においては子供の年齢が少いだけなほ更この點が注意すべきことである。餘り事あらたまつたむづかしい生活に入るといふ事をつよくいひきかされるために、あの可憐な子供が大人の想像もつかない緊張した心持ちになつて、そのために健康を害し、殊に神經の上に少からぬ害を與へることがしばしばある。或ひは當分の間食欲がへるとか、或ひは體重がへるとか、或ひは睡眠の上にいる／＼な影響を起こして

くることなどもある晝の間はそれほど気がつかないでも、夜寢てから不意に床の上で起き上がつて顔色をかへたり、なきだしたり、はなはだしいのは一種のかい瘡癩をさへ現すことがある。それは醫學で夜驚と名づけて、子供の心に激しい刺戟のあつた日の夜に起るが、かういふ事が幼稚園に初めてはいつた子供におこつたりしないともかぎらぬ。かういふはなはだしい例は勿論その子が神經的な素質をもつてゐるためであるが、それからおして見ても普通の子供でも相當に心の激動をうけるものだといふことは考へねばならない。今まで少數の家庭の中にくらして、あふ人も聞く言葉も見るとも、日ごろなれてゐる氣安いものばかりであつたものが、見知らぬ建物、見しらぬ友だちの世の中に出るのであるから、さなきだにやさしい子供の神經は刺戟をうけてゐる。それを更にそばから餘計なことをいつて、

『しつかりしなければいけない』。『行儀よくしなければいけない』。『家にゐる時とはちがふから』など、いふのは、いふ大人はそれほどのつもりでないにしても、幼な心には非常な緊張を興へるのである。

(二)

たゞにかういふ身體の上に及ぼしてくる悪い影響ばかりでなく、幼稚園の方から見ても、いろいろの悪い結果をおこす。初て家庭からうけとつた子供をむかへる時に、幼稚園の保母の最大の苦心は『どうしてこの子供としたいしくならうか』。いひかへれば『どうして心と心のへだてない接觸を得ようか』といふことである。このためには勿論いろいろの経験にもとづく態度も方法もあらうし、殊に保母自身の心がいかなるやはらかな子供的心にもすぐふれ得られるやうなやはらかなさをたゞへてゐなければならぬのであるが、それにしても子供の心が、子供らしくなく不自然にごちてゐる場合には、これを開いてうちとけた心持ちにかへすことが非常な困難である。元來子供の心はたれにでもしたしみやすく、へだてのない筈のもので、殊ににこやかにむかへてくれる姉さんやおばさんのやうな、保母に對しては、この子供の

自然の心持ちがすぐに出てくる筈であるが、時にはさうでないことがある。それは中には神經質のはにかみやといふたぐひの子供もたまにはあるが、寧ろ家庭でこの開かうとする子供の心を無理にとぢるやうに、くだらない無用の心得のやうなものをいひきかせるためである場合がおほい。極端にいへば『先生を見たら、こはいものと思へ』。『しかられるものと思へ』。『鬼だと思へ』とでもいつたやうに嚴格に教へる親もあるやうである。親心としてはさういふやうにしていかなければ教育といふものがうけられないと考へる場合もあらうし、また自分の家のわがまゝものを人さまにおたのみするには、親としてさういふ豫備的注意をしつかりしておかなければ相すまぬといふ義理がたいとでもいふ心持ちをする人もあらう。

考へ方によつてはそれらの親心そのものには無理もない點もあるとも見なければならぬが、これはほんたうの教育をうけさせる心得でもなければ、またほんたうにわが子を信頼する保母に託するたゞしい態度でもない。教育は勿論いろいろなことをするけれども、その出發點或ひは土臺とでもいふべきもの

は、子供のあからさまなありのまゝな自然の正直な心持ちからでなければ何一つほんたうのことはできないといふことである。親の出がけのいひきかせによつて、一種の不自然な心持ちにさして、大切な教育の第一歩に入らせるといふことは非常な間ちがひである。幼稚園へ初めて子供をおくるについては、できるだけ『たのしい世界へしたしみの おほい世界へ自分を心から信じてくれる人たちの世界へ行くのである』といふ心でしなければならぬ。しかしこんなことを事あらためていひきかせるだけで緊張するやうな子供ならば、極不用意な心持ちで、一寸お隣りのをばさんのところへでも行くやうな樂な氣持ちでおくるのが一番よい。

(三)

たゞしこの不用意な心持ちといふのは子供の心についていふことで、親の心としては決して不用意であつてはならぬ。幼稚園に子供をおくるのには親として非常な用意のいることである。『まあ、うちの子供も幼稚園に行くやうになつて手が樂になつた』といふやうなことは非常な間ちがひが考へである。自分の子を人さまにお願ひするといふ普通の人情から

いつても、それには充分な用意もし心づかひもしなければならぬ。たゞ義理や人情からさうなるべきでなく、實際に幼稚園からどれだけの充分な利益をわが子がうけてゐるかどうかといふことも大いに親の心ひとつによるのである。幼稚園としては家庭の心がけの如何にかゝはらず、その子のために最善をつくさうとはこひねがつてはゐるが、またさうあるべきであるが、おなじあそぶにしても遊ぶに都合のよい服装をしてる子供とさうでない子供とはおなじ幼稚園からおなじく與へられるものをうけるにしても違ひのあることはしかたがない。清潔な親の心づかひになるお辨當をたべる子供と不注意なるお辨當をたべる子供とが、幼稚園生活からうけとる利益が非常な差のあることもあらそへないことである要するに幼稚園へわが子をおくるについては親は緊張した心づかひをしなければならず、子供にはできるだけのおんびりとした氣樂などかな心持ちで幼稚園をたのしませるやうにしなければならぬ。

(四)

終に大事な可愛いお子さんを初めて幼稚園におくる家庭の方に是非とも特に申し上げておきたいこと

は、家庭自身が幼稚園と人間的なしたしみの関係にならなければ、ほんたうの教育は到底できないといふことである。子供を幼稚園におくることは子供を中にして家庭と幼稚園兩方が相抱く様にして教育して行くことにほかならない。しかるに子供は幼稚園でたのしんでくるが家庭は幼稚園とあかの他人であるといふやうな冷淡な關係であつては、決してよい教育はできないのである。(東京日々新聞)

押したりすると足が腫たりはげしい神経痛を發したりする。また腹部を壓迫するから消化器の病氣も起りやすい、さて以上のやうな病氣を豫防するのは別に難事ではない、たゞ姿勢を正しくして机腰掛の適當なのをえらべばよいである。文部省の學校用机、腰掛の構造はすでに、明治二十六年に三島通真博士の研究で作られてある。それは兒童の身體の發育の程度に合ふやうに作られたので普通小學校で用ゐるものは一號から五號の机及び腰掛けがある。凡そ六歳の兒童に一號の机を、七八歳の尋常一二年の兒童に二號を、九歳、十歳の尋常三四年の兒童に三號を、十一歳十二歳の尋常五六年の兒童に四號を、十三歳十四歳の高等小學の兒童には五號をといふ事になつてゐるが元來年齢の如何に拘らず身長の高低によりてこれらの机を使用してよいのである即ち腰掛の高さは兒童の下脚の長さにとくとく、机の高さは腰掛の高さに肘から腰掛の面に至る距離に七分乃至一寸三分を加へたものになれば丁度よいのである。

然し中々さうおあつらへに寸法が行くものでないから、まづ洋式なら兒童が小學校に入る時の一號の机の高さの一尺五寸、日本式の机だけならそれから腰掛の高さを引いただけの七寸位の高さからはじめ、二年ごとに洋式の机なら一寸五分位づゝを日本式の机なら五分乃至一寸位づゝを高くする事が出来ればまづ理想的である一番によいのはチヂの如きもので、高低の調節自在の机、腰掛けてこれなら如何なる兒童でも適合させ得る。すでに英米の諸學校ではこの種の机を用いてゐると聞いたが、早くわが國でもこれを用ゐるやうになりたものである。さて机が低過ぎたらどういふ害があるかといふに勢ひ前に俯するから近眼をさせ、胸が机におされて呼吸が